

魚沼市建設現場に設置する「快適トイレ」の試行実施要領

1 目的

国土交通省では、建設現場を男女ともに働きやすい環境とするため、ワーク・ライフ・バランスを推進できる環境整備を進めており、その一環として、男女ともに快適に使用できる仮設トイレ(以下「快適トイレ」という。)を導入し、職場環境の改善をしており、新潟県においても、国土交通省の運用に準じて「快適トイレ」の試行を行っている。

こうした動きを踏まえて魚沼市においても、ワーク・ライフ・バランスの推進により職場環境の改善が図られ、女性の更なる活躍や新たな入職者の増加につながるなど、担い手の確保に寄与すると考えられることから、建設現場への快適トイレ設置を本要領により試行する。

2 試行対象工事

- (1) 当初設計額 1 億 5,000 万円以上の工事
ただし、工場製作などの屋内作業が主となる工事を除く。
- (2) 当初設計額 1,000 万円以上 1 億 5,000 万円未満で受注者の希望があった工事

3 快適トイレの仕様

快適トイレには以下の仕様があるが、本工事でいう「快適トイレ」とは、このうち「(1) 快適トイレに求める機能」「(2) 付属品として備えるもの」を全て満たすものとする。

女性が現場で働く場合は、男女別で各 1 台を設置するものとする。

営繕工事(建築、電気設備及び機械設備)等、現場内に分離・分割発注して複数工事がある場合、工事ごとではなく、一現場に快適トイレを設置することを原則とする。

- (1) 快適トイレに求める機能【必ず実施】
 - ① 洋式便器
 - ② 水洗及び簡易水洗機能(し尿処理装置付き含む。)
 - ③ 臭い逆流防止機能
 - ④ 容易に開かない施錠機能
 - ⑤ 照明設備
 - ⑥ 衣類掛け等のフック又は荷物の置ける棚等(耐荷重を 5 kg 以上とする。)
- (2) 付属品として備えるもの【必ず実施】
 - ⑦ 現場に男女がいる場合に男女別の明確な表示
 - ⑧ 入口の目隠しの設置(男女別トイレ間も含め入口が直接見えないような配置等)
 - ⑨ サニタリーボックス(女性用トイレに必ず設置)
 - ⑩ 鏡と手洗器
 - ⑪ 便座除菌クリーナー等の衛生用品

(3) 推奨する仕様、付属品【より快適となるもので実施は任意】

- ⑫ 室内寸法 900×900 mm以上(面積ではない。)
- ⑬ 擬音装置(機能を含む。)
- ⑭ 着替え台
- ⑮ 臭気対策機能の多重化
- ⑯ 室内温度の調整が可能な設備
- ⑰ 小物置き場(トイレトペーパー予備置き場等)

4 試行の流れ

【発注者】

(1) 発注者は、当初設計額 1 億 5,000 万円以上の工事を発注する場合は、設計書に「建設現場に設置する「快適トイレ」の特記仕様書」を添付する。

発注者は、当初設計額 1,000 万円以上 1 億 5,000 万円未満の工事を発注する場合は、設計書に「建設現場に設置する「快適トイレ」の特記仕様書(希望型)」を添付する。

【試行工事の契約後から竣工まで】

「建設現場に設置する「快適トイレ」の特記仕様書(希望型)」の場合

(2) 受注者は、施工計画書作成前に、快適トイレ設置希望の有無について、打合せ簿により監督員と協議を行うものとする。

設置しない場合は、本試行要領によらず施工するものとする。

「建設現場に設置する「快適トイレ」の特記仕様書」又は(2)により説置する場合

(3) 受注者は、快適トイレを設置する旨を施工計画書に記載し、監督員へ提出するものとする。また、様式 1「快適トイレチェックシート」に必要事項を記入し、パンフレット等の資料とともに、監督員に提出するものとする。

ただし、快適トイレの手配等が困難の場合は、監督員と協議の上、本試行要領によらず施工するものとする。

(4) 監督員は、提供された資料を基に、「快適トイレチェックシート」のチェックを行う。

(5) 受注者は、快適トイレを現場に設置した後、様式 2「快適トイレ設置報告書」の電子データを監督員に提出するものとする。

(6) 監督員は、設置された快適トイレを現場(やむをえない場合は机上)にて「快適トイレチェックシート」によりチェックを行う。

(7) 受注者は、快適トイレに要した費用が確定したら、速やかに見積りを監督員に提出するものとする。

- (8) 監督員は、「快適トイレに求める機能①～⑥」及び「付属品として備えるもの⑦～⑪」について、内容が確認できる見積りの提出を受注者に求め、確認できた場合に変更設計書へ計上するものとする。(積算方法は「5 積算」による。)
- (9) 監督員は、「快適トイレチェックシート」を設計書に綴って保管する。
- (10) 監督員は、「快適トイレ設置報告書」を電子メールで財務課に提出するものとする。

5 積算

- (1) 快適トイレに要する費用は、当初計上しない。
- (2) 受注者から提出された、快適トイレに要した費用の見積りを基に「通常トイレとの差額」※1 を変更設計書に計上するものとする。(以下、条件に注意)
 - ① 差額は、51,000 円／基・月を上限に計上するものとし、男女別で1基ずつ設置した場合は、2基まで計上できるものとする。(102,000 円／2 基・月が上限)
※1:「通常トイレとの差額」とは実際にかかった費用から 10,000 円／基・月(通常トイレ費用)を差し引いた額
 - ② ハウス型等の男女別トイレが一体型となっている場合、男女別の入口になっている場合に限り、1ハウスで 102,000 円／基・月を上限に「通常トイレとの差額」を計上できるものとする。
- (3) 営繕工事(建築、電気設備及び機械設備)等、現場内に分離・分割発注した複数工事がある場合の変更設計の対象工事は、一工事とし、受発注者の協議により決定する。
- (4) 計上する費用は「通常トイレとの差額」と各上限額を比較し、より安価な方とする。
- (5) 計上の対象期間は、現場付近に快適トイレを設置した実績期間とし、最小単位は日とする。1か月未満の端日数分については、1か月を30日として日割り計算した額(小数点以下を切り捨てし整数止め)により計上する。

6 その他

疑義が生じた場合は、受発注者が協議した上で対応するものとする。

7 適用

本試行実施要領は、令和5年4月1日以降、入札の公告又は入札の通知を行う工事から適用する。